

## 岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 江口 健治郎

学校住所 可児市中恵土 2358 の 1 電話 0574-62-1185

1 会議の名称 平成28年度可児工業高等学校評議員会（第2回）

2 会議の構成 委 員 有本 敦子 本校PTA副会長  
亀谷 実記 本校元PTA役員  
加藤 喜雄 可児市中恵土自治会連合会 会長  
中村 茂 可児市下恵土自治会連合会 会長  
藤田 幸夫 (株)甲山製作所 取締役社長  
(委員名五十音順)

学 校 側 江口 健治郎 校長  
西谷 徹 教頭  
伊佐治 敬二 事務長  
土田 公成 教諭（教務部長）  
伏見 圭太 教諭（生徒指導部長）  
加藤 正康 教諭（特活部長）  
水野 茂之 教諭（進路指導部長）  
宮田 忠夫 教諭（工業部長）

3 会議の目的 岐阜県立可児工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成28年度の教育方針・重点に基づき、本年度実施した取組の状況と成果を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け、本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成29年2月1日（水）10:00～12:00 可児工業高等学校  
評議員5名と学校側8名が出席

### 5 会議の概要

#### (1) 学校長挨拶

#### (2) 学校の取組みの成果と課題について

教 務 部：H25年度から、進学類型と就職類型に分けたカリキュラムが4年目となり、3年生4名が進学類型に取り組んだ。結果、国立大学1名を含め、全員が四年制大学に合格し、ある程度の成果を得た。今後は、生徒や保護者のニーズを精査し、本校に適したカリキュラムの検討を行っていく。基礎学力向上と定着を目指した毎朝のチャレンジタイムの実施や授業改善に向けた取組により、成績不良者数は激減した。また、転退学者も年々減少傾向にあるなど学校や学習に適応できて来た。4年目を迎えたクリーブランド高校との交流事業は、今年度新たに可児市の協力を得るなど軌道に乗ってきた。次年度のオーストラリア派遣に向けて鋭意準備中である。

生徒指導部：「時間とルールを守る」指導の成果として、遅刻発生率は可茂地区で最も少ない。MSリーダーズ活動では、部活動に加えて生徒会や各種委員会の生徒も参加してボランティア清掃を行った。また、生徒部活動や生徒会役員による毎朝の挨拶

撈運動は交通安全、挨拶運動等に貢献できている。いじめに関する案件は2件あったが、担任や学科と連携した素早い対応で早期解決に至った。

**部 活 部**：生徒会活動は可児工祭をはじめ各種行事に加え、今年度は主権者教育や防災リーダーとしての活動が加わり、多忙ながら生徒、教員とも勉強だった1年であった。これらの経験を全校生徒に還元するために試行錯誤したが、来年度に向けてより効果的な手法を検討中である。部活動においては、電気システム部がマイコンカーラリー全国大会で1,2位を独占し、ホッケー部の2名が国体選抜選手として参加し、県代表の優勝に貢献した。他にも、各部で活動が活発化し、成績も伸びており、今後一層の支援をしていく予定である。

**進路指導部**：今年度は就職者が75.7%と昨年並みに多かった。1次の内定率も90%を超え、公務員も3名が合格するなど、全体的に好成績であった。しかし県内就職者が60%を下回り、市内就職者も昨年をやや下回った。なお、求人状況は良好で、求人数は久しぶりに1,000人を超えた。進学者については3年ぶりに国公立大学へ1名が合格するなど良好であった。地道なキャリア教育の成果を発揮する一方で、面接等が原因で不合格となる生徒もおり、コミュニケーション能力などの向上が求められる。

**工 業 部**：専門高校の中では突出して就職率が高い工業高校であるが、県外への流出率も依然として高い。こうした現状を踏まえ、企業・大学・地域等との連携をテーマに、多様な取り組みを実施した。インターンシップや県指定の国際化推進事業などにより、企業で技術・技能の指導を直接受け、学んだ技術・技能を活かしたものづくりをし、地元中学校に対してのテクノボランティアや地域イベントに出展・参加した。このような取組等を通して、生徒の地域への愛着を深めるとともに、地域に貢献できる工業技術者の育成に努める。

### (3) 施設見学と課題研究の報告

#### ① 改修工事中の総合実習棟の見学

昨年9月から行われている本校総合実習棟の工事の進捗状況を工事担当者から受けた。また、今年度更新されたパソコン等も見学していただき、生徒の学習環境が向上することはとてもいいことであると高評価をいただいた。

#### ② 3年課題研究作品の報告

本年度、3年生が課題研究で研究・製作した成果物を各学科長から説明を受けた。「ものづくり」の実際を見聞し、本校教育の質の高さを知っていただくことができた。

### (4) 協議 テーマ「本校の教育活動に関する感想と提言」

**意見1** 前回7月に建設工学科の製図を見て、これが実際にモノとして出来上がることをイメージしていたが、課題研究の作品や3年生が実際に専門を生かして進路が決まった現状を聞き、本校生徒が実社会で工業技術者として貢献していくことを実感できた。

**意見2** 国際交流事業に取り組まれているとのこと、本校のホームページは英語表記のものがあるか？無ければ検討してみてもどうか？

**意見3** 先日、清掃活動をする生徒に出会ったが、ただ、ゴミを拾うだけでなく、遠くから挨拶する姿を見て、卒業生としてとても頼もしく思えた。今後も指導を続けて欲しい。

**意見4** 生徒会の生徒が防災リーダー研修を受けたとのこと。高齢化が進む中、今後は地域の防災は中高生が中心になって欲しい。

**意見5** 45年前と比べるといろんなことが進歩していると感じた。生徒も新聞などのマスコミに出ることが多く、卒業生としても嬉しい。仕事現場は、まだまだモノづくりが中心である。今後もモノづくりのプロを育成して欲しい。

**意見6** 母親として6年間本校にお世話になり、先生方にはあらゆる場面で指導していただきました。もっとこの学校が人気のある学校になるために、女子生徒の確保に力を入れてみてはどうか。今日見た課題研究では、女子生徒が興味を持ちそうなものもたくさんあり、もっと宣伝できるのでは？現状では、女子中学生の選択肢は男子に比べて少ないと感じる。

意見 7 専門高校の課題研究作品を見て驚いた。特に就職に向けて勉強していることもよく分かった。女子生徒がもっと増えれば男子生徒も増えるのでは？

<質問への回答>

意見 2 への回答 ⇒ 国際化交流事業を立ち上げる時に作りかけたものがある。しかし、完成はしていない。今後検討する。

意見 4 への回答 ⇒ 現状では校内での防災訓練「命を守る訓練」を中心に実施しているが、ハザードマップ等を活用して登下校の危険個所についても留意させている。また、教員は避難所設営研修などを受講し、今後、生徒や地域住民にどのように還元していくことができるのかを検討する。

意見 6 への回答 ⇒ 今年度、中学校説明会においても、本校で活躍する女子生徒について紹介してきた。本校としても女子生徒が活躍している現状を考慮し、今後も女子生徒の確保に力を入れていきたい。

## 6 会議のまとめ

学校評議員の方々には、今年度の本校の教育実践の成果や課題を報告し、また課題研究の成果物や施設設備をご覧いただくことで、ものづくりを通し社会から期待される人材育成を目指した本校の教育活動について理解を深めていただくことができた。また、求人状況など工業高校の生徒を取り巻く現状は決して悪いものではない。にもかかわらず入学希望者は思うように伸びていない。地域や社会は工業高校生を要求している反面、工業高校を目指す中学生の数は少子化も伴って減少傾向である。優れた取組みや成果は十分に伝わっていないのも評議員の方々の反応で読み取れる。突出した成果だけでなく、地道な取組みを継続的に、そして効果的に発信することにも取り組まなければならない。

また、ものづくりのエキスパート育成に加えて、コミュニケーション力を身につけた将来の経済や産業の変化に対応し生き残ることができる人材の育成について、長期的な展望で本校の在り方を考えていく時期でもある。